

令和 7 年度松川家住宅拡張工事に伴う緊急発掘調査の実施状況について

I 発掘調査の概要

調査場所	花巻市城内 2 番 2 号（花巻城跡三之丸跡 松川家住宅）
調査期間	令和 7 年 9 月 1 日（月）～令和 7 年 9 月 17 日（水）
調査面積	66 m ²
調査地点	住宅の西辺及び東辺（基礎新設範囲）
調査目的	住宅の改築工事に係る事前の緊急発掘調査

II 松川家住宅の歴史的背景

藩政時代、館小路には武士団の屋敷が配置され、城内への敵の侵入に備えていた。現在、館小路に残る近世の建築物としては、館小路西半の南側に位置する松川家とその向かい（北側）にある伊藤家の二軒の武家屋敷、そして東方にかつて三之丸搦手口であった円城寺門があり、それぞれ当時の面影を今日に伝えている。

松川家住宅の建築年代は、棟札に「文政十三（1830）寅年三月二十八日」と記されていることから江戸時代後期のものと判明する。住宅内部には、文政十三年の建築当時に大工棟梁を務めた高橋勘次郎による彫刻が、建物西側の「座敷」や「つぎの間」付近の欄間や違い棚に残されている。

松川家の先祖は旧葛西氏の家臣・羽黒堂氏（現、奥州市水沢羽田町付近）である。中世末（16 世紀末）の奥州仕置により主家の葛西氏が没落すると、当初は江刺氏旧臣として南部氏に仕え、近世初頭（17 世紀前半）に花巻御給人に採用された。のちに元禄十二（1699）年に本姓を松川氏へ改め、最終的な石高は 100 石であった。代々、鬼柳通や安俣高木通代官、花巻町奉行、取次など花巻城の要職を務め、特に取次を務めた松川茂隣（しげちか）は文化六～七年（1809～1810）に花巻城の大改修を主導した。その子・慈安（しげやす）は安政二年（1855）に私財を投じて城内三之丸に文武の学問所「揆奮場」を設けている。また、数代にわたり歌人として文芸の分野でも知られた一族である。

松川家住宅は、館小路を挟んで対面する伊藤家住宅とともに、盛岡藩南端の要地として花巻城が機能していた江戸時代の貴重な遺構であるが、現在は当主の居宅となっている。そのため基本的な間取りや外観を保ちながら、建物維持のため土台安定化を目的とした基礎工事が行われ、今回の緊急発掘調査に至った。

III 検出遺構

1. 調査前（改修部分の既存建物撤去後）の状況（写真図版 1、2）

今回の調査範囲は、東西両側に予定されている新たな基礎設置箇所の計 2 か所である。西区（建物西側）は西南の旧便所及び縁側付近、東区（建物東側）は旧浴室及び小部屋付近に当たる。両区の旧建物床下からは複数の礎石が検出され、その中には表面に「十」や「こ」などの墨書が残るものもあった。旧建物の外周では、南西隅および南東隅付近に土留めと

みられる石列が断続的に地表へ露出していることを確認した。

2. 調査後の状況（写真図版2～4）

東区中ほどの表土直下（Ⅱ～Ⅲ層上面）では、長さ4mにわたり、長さ20～30cm、幅・厚さはおおむね10～15cmの川原石を建物外周に沿って敷き並べた石列を検出した。この石列は北端でL字状に東へ屈曲し、南端付近も同様に屈曲している可能性がある。現状の平面図にみえる建物の出入りに沿って敷設されていたことが判明し、現在周囲に一部露出している石列と同一の系列であると推測される。なお、現在の建物の建築年代が19世紀前半（江戸時代後半）であることを踏まえると、この石列もほぼ同時期の遺構と考えられる。

この石列は建物外周に沿って構築されていることから、建築範囲内（調査区では東区南半西側）に確認される厚さ約20cmの盛土整地土の外側への流出を防ぐ目的で設けられたものとみられる。図示していないが、石列下の地山上（Ⅳ層上面）では、より古い掘立柱建物を構成する柱穴を数基検出したほか、南東隅の下層からは東西に延びる古い時期の石列を部分的に検出している。これらは江戸時代前半あるいはそれ以前の遺構と考えられ、より古い段階で現況とは異なる土地利用が行われていた可能性を示している。

一方、西区では東区と同様に地山上まで精査したが、Ⅲ層中に礎石の可能性のある礫が1点見られた以外、明確な遺構は確認できなかった。

IV 出土遺物の概要

I～Ⅲ層内より出土し、特に東区での出土が目立つ。近世～近代にかけての陶磁器や硯、瓦が主体で、他に和釘・土壁が少量あり、総量は中コンテナ2箱である。

【陶磁器】（写真11）

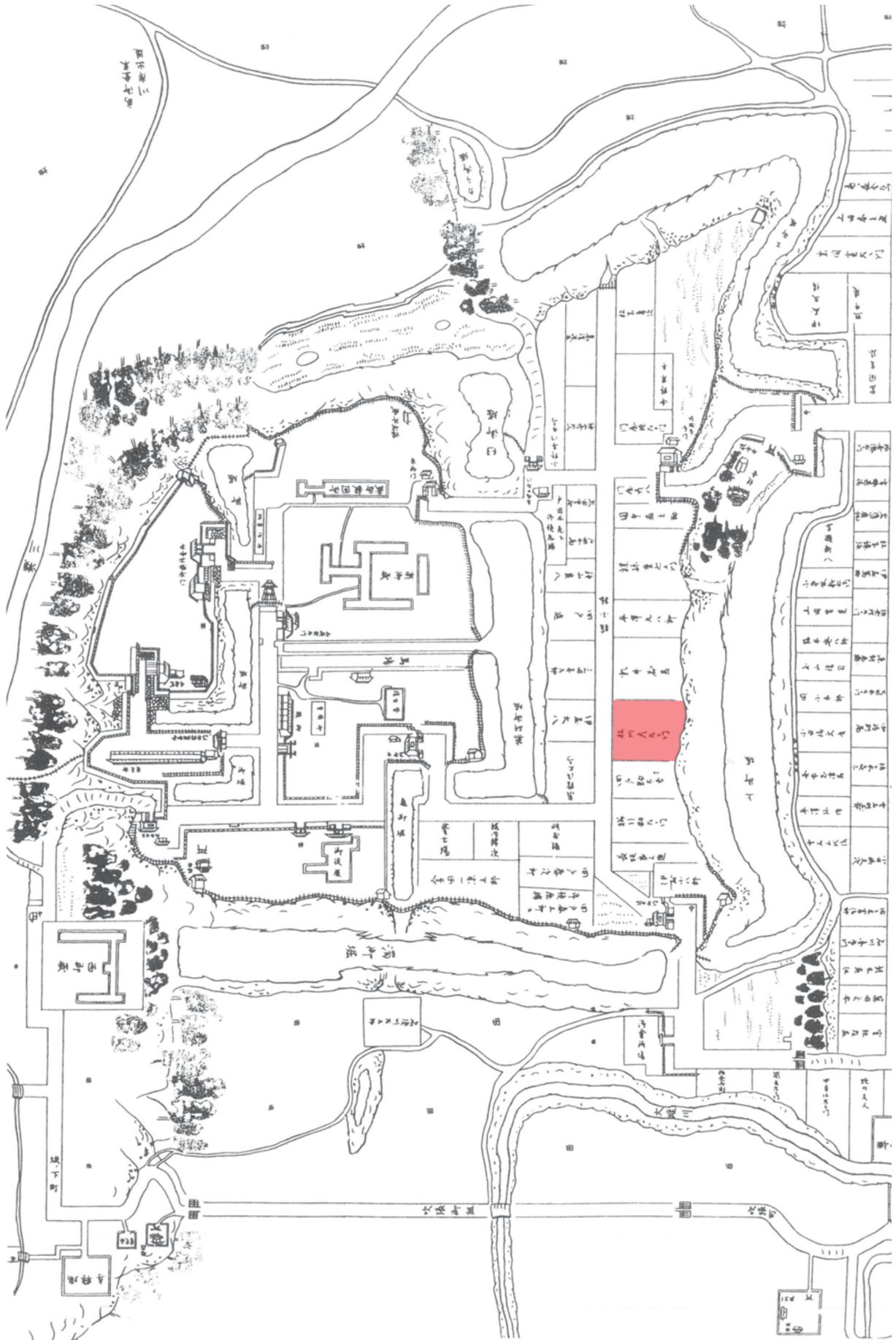
約100点前後が全て破片で出土している。18～19世紀代の伊万里焼や波佐見焼を含む肥前産磁器染付が多く、碗・皿を中心に小坏・猪口・徳利・香炉・蓋など各器種がみられる。これに加えて、瀬戸美濃産の碗・皿・播鉢・火鉢、相馬産の碗や在地産の陶器類がみられる。特に東区のⅢ層より出土した美濃産（志野焼）丸皿1点、瑠璃釉が特徴的な肥前産菊皿1点はともに17世紀代のもので、今回調査では古手のものとなる。〔産地や年代等については、岩手県埋文センター・羽柴直人氏、村田淳氏のご教示による〕

【硯】（写真12）

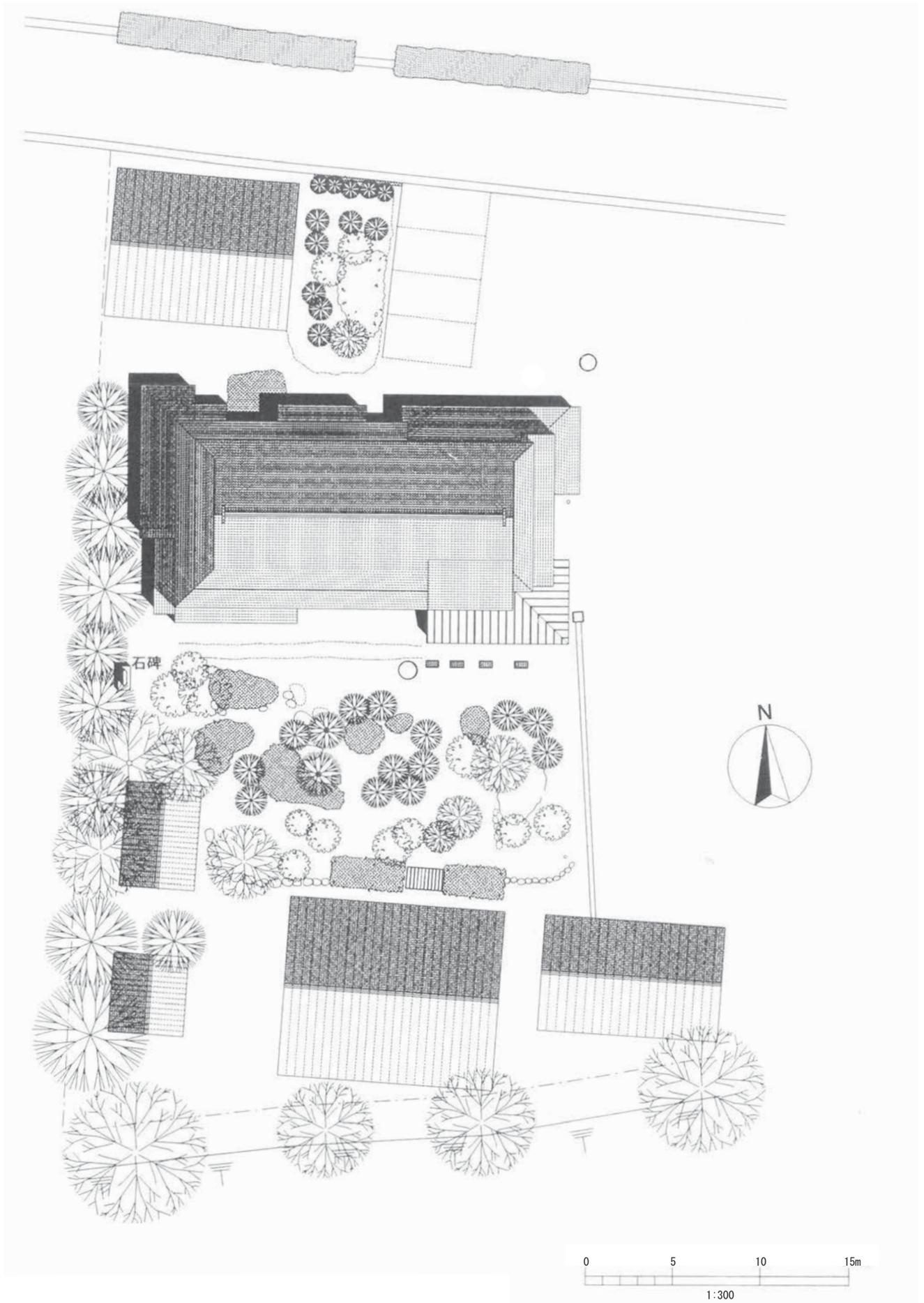
東区のⅠ層内より計4点出土した。うち3点は11～12cm×6cmの同規格のもので、硯面の残りがよく、使用痕が顕著にみられる。一方の1点は暗紫灰色を呈し、やや大ぶりなもので、県南の東山産紫雲石を使用した可能性がある〔県埋文センター羽柴氏のご教示による〕。

【瓦】（写真13）

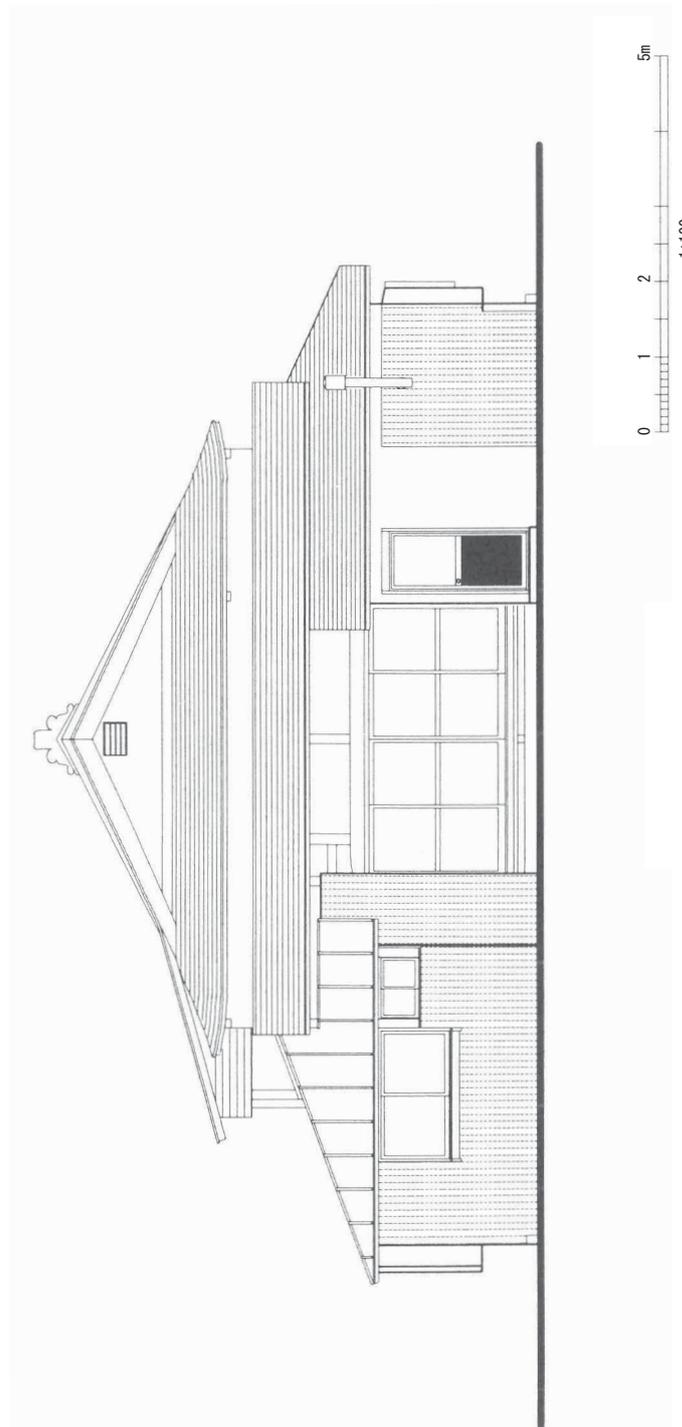
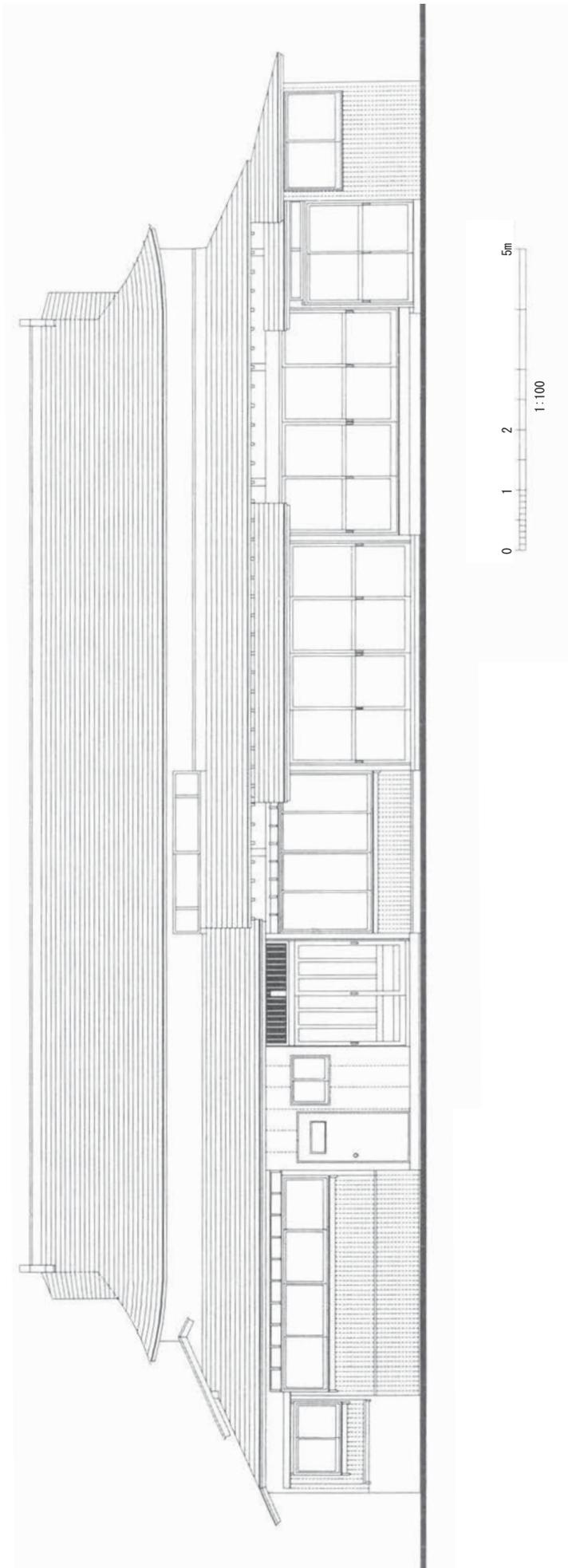
東西両区内より計10点出土し、全て破片である。赤瓦は3点出土し、うち1点は塀瓦がみられる。ほかは全て燻瓦である。花巻城におけるこれまでの調査では、城内全域より南部家家紋の双鶴文軒瓦をはじめとする一定量の燻瓦の出土が確認されている。



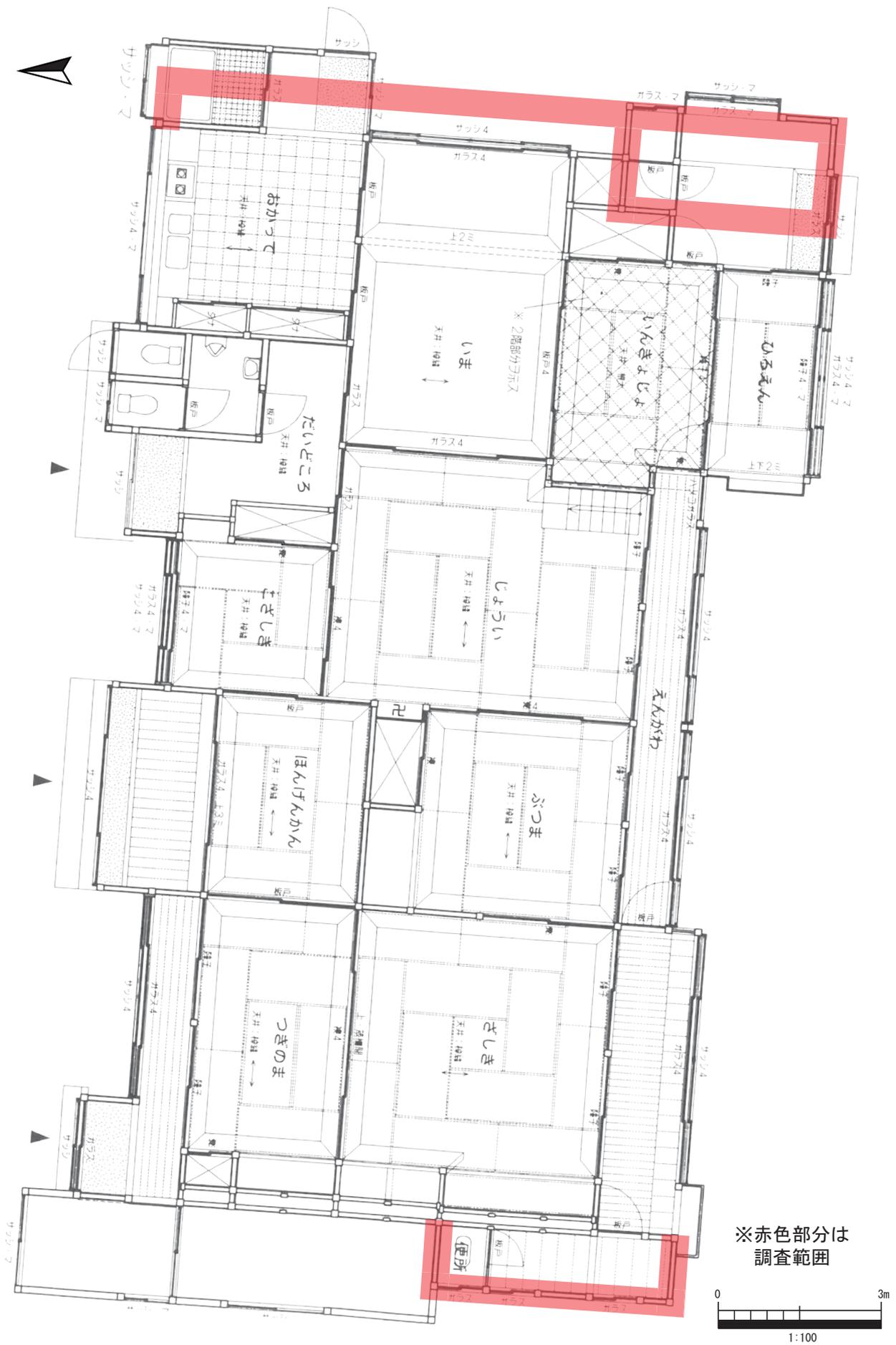
第1図 松川家の位置（もりおか歴史文化館蔵『花巻御城廓図』に加筆）



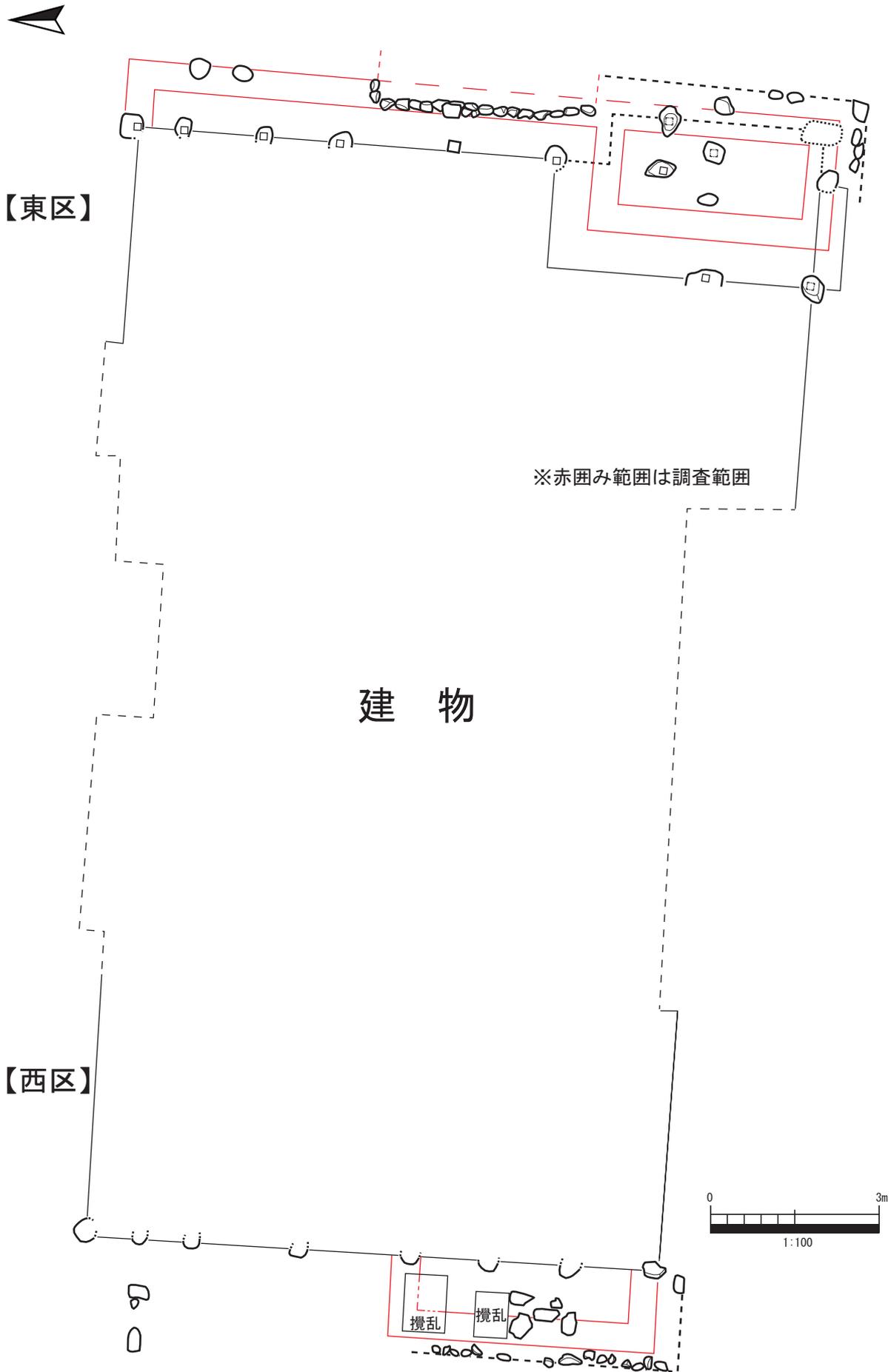
第2図 松川家配置図（平成10年当時）



第3図 松川家北側・東側立面図（平成10年当時）



第4図 松川家平面図（平成10年当時）及び調査位置図



第5図 令和7年度調査 遺構配置図



【写真1】 左：松川家住宅の旧状写真 [昭和 50 年代]（北東から）
右：茅葺き屋根の古写真（年代不明）



【写真2】
東区調査前現況
（北東から）



【写真3】
西区調査前現況
（北から）



【写真4】〔東区〕左：南半の旧建物床下より礎石検出状況（北から）
右：礎石表面の「十」ほか墨書 確認状況



【写真5】〔東区〕東辺石列（Ⅱ層）検出（左：東から、右：南から）



【写真6】〔東区〕南半建物内の土層状況（東から）



【写真7】〔東区〕南端の東西石列（Ⅲ層）検出状況（北から）



【写真8】〔東区〕石列下層（Ⅳ層上）の柱穴検出状況（南から）



【写真9】〔西区〕完掘後の近景（南西から）



【写真10】〔西区〕南半の土層（西から）



【写真 11】
出土陶磁器



【写真 12】 出土硯



【写真 13】 出土瓦

令和 8 年度 花巻城本丸跡内容確認調査の実施計画案について

1 発掘調査の目的

令和 8 年度は本丸第 2 期調査の 2 年目にあたり、本丸南辺土塁南西隅に位置する、いわゆる三社跡一帯を対象に発掘調査を実施する予定である。令和 7 年度に御台所前御門周辺で得られた成果と合わせて、本丸外周部の構造や変遷を明らかにすることを目的とする。

本丸外周では西辺部から南辺部にかけて土塁が良好に残存している一方で、絵図に描かれる土塁上の塀は現存しておらず、その痕跡の有無や残存状況は発掘調査で確認する必要がある。あわせて、御台所前御門周辺で確認された土塁の内部構造との比較、整地層との新旧関係を把握することにより、花巻城の築城過程に関する考古学的知見の蓄積を図る。

2 発掘調査計画の概要

【調査地点】 本丸跡南西部（三社跡・土塁）

【調査期間】 令和 8 年 5 月～11 月（6 か月程度）

【調査面積】 407 m²

【調査目的】

- ・三社跡とされる土塁南西隅の方形平坦面について、遺構の有無を確認する
 - 櫓が存在していた可能性は無かったか
- ・土塁の構造を確認する
 - 調査区内の表土及び盛土除去（主に人力による。できる限り全面的に除去。）
 - 部分的な断ち割りをを行い、内部構造を確認する
- ・土塁頂部の遺構の有無を確認する
 - 絵図面にみられる漆喰塀の遺構が残っているか
- ・本丸整地層と土塁との関係を確認する
 - 土塁の裾から整地層にかけてトレンチを掘削する
 - 土塁構築と整地層形成の新旧関係を把握し、本丸の修築経過を把握する

3 三次元測量の実施

調査区は土塁の頂部と基部で高低差があり、記録作業での頻繁な上り下りや法面上での作業は転倒等の危険性が高い。そこで、安全確保と計測精度の向上を目的に、法面での直接作業は掘削作業にとどめ、ドローン等を用いた三次元測量を実施する。調査後には、得られた点群データや地形モデルを基に等高線作成やエレベーション図作成を行う。

4 現場復旧の方法について

土塁部分は、埋め戻し後に法面および上面に種子入りの客土吹付を行い、緑化により土壌の流出と土塁崩壊を防ぐ。吹付の厚さは 1 cm 以上とし、冬期間の降雪や凍結で流出しないようにする。また、使用する種子は多年草とし、除草時の作業に支障がない種類とする。

土捨て場とする芝生部分は、芝張により芝生を復旧する。



【写真1】令和8年度調査予定地 遠景（東から）



【写真2】令和8年度調査予定地 近景（北東から）

写真図版1 令和8年度調査予定地（1）



【写真3】 令和8年度調査予定地 近景（北から）



【写真4】 三社跡 [土塁上面] 近景（北から）

写真図版2 令和8年度調査予定地（2）・三社跡（1）



【写真5】三社跡 [土塁上面] 近景 (南から)



【写真6】本丸南辺土塁 近景 (西から)

花巻城跡内容確認調査実施計画書（令和 8 年度）

1 概要

花巻城跡に現存する建造物や各種遺構の保存を進め、花巻城跡の歴史的、文化的価値を後世に伝える必要があることから、花巻市教育委員会では、「(仮称)花巻城跡保存計画」を策定するため、考古学及び城館研究に精通する委員で構成する「花巻城跡調査保存検討委員会」を平成27年6月に設置し、調査保存のあり方について検討を進めてきた。

花巻城跡は、本丸跡が花巻市の史跡に指定されているが、明治初期の廃城、払い下げ以降開発が進められ、花巻城当時の建造物や遺構はその多くが失われてきた。しかしながら、現在に残されている遺構等も相当数存在し、市民の花巻城跡に対する関心も高いこと、さらに遺構の残存状態が良好である可能性が高い二之丸南御蔵跡付近の土地を花巻市が平成27年度に取得したことを契機に、花巻城跡の史跡指定範囲の拡大等保存を進めていく必要があり、その基本計画を整備するためにも、(仮称)花巻城跡保存計画を策定するものである。

計画の策定に当たっては、最初に花巻城跡の遺構等を明確にするため、平成28年度から5か年計画で遺構・遺物の内容確認調査を実施することとし、初年度及び2年目は取得した二之丸南御蔵跡付近の調査、3年目及び4年目は本丸跡の調査を行い、調査成果を踏まえながら、最終年度に計画案をとりまとめる予定としていた。しかし本丸の2年間の発掘の結果、重要な成果を得られた一方で、不確実な要素が多くあったことから、さらに2年間の本丸での発掘調査を継続した上で保存計画案の策定を行うこととした。

その後、令和3年度の調査では本丸御殿の南西部と北西部を確認することができたが、依然と御殿の規模や位置は不確実であったことから、詳細を把握するために追加調査を実施することとした。併せて、本丸の構成要素である門跡や櫓跡等の周辺施設についても御殿と一体的に保護を図るため、発掘調査を実施して規模や性格など考古学的情報の蓄積に努めることとした。

その上で、花巻城の中でも残存状況が比較的良好である本丸とその周辺部については、遺跡の価値を高めて岩手県民の宝として保護・伝承していくために、岩手県指定史跡への指定申請を目指すこととする。保存計画は、発掘調査と発掘報告書刊行が終了後の令和10年度に策定することとする。

なお、調査に当たっては、花巻城跡調査保存検討委員会において調査箇所及び調査方法を指導いただきながら、検討するものとする。また、調査成果は市民に周知するとともに、小中学生向けに、花巻の歴史を学ぶための資料として活用を図るものとする。

2 調査計画

時期	計画年度	実施予定内容
二之丸 調 査	平成28年度	二之丸南御蔵跡付近内容確認調査、次年度以降調査検討
	平成29年度	二之丸南御蔵跡付近内容確認調査 平成28年度調査室内整理作業、次年度以降調査検討
本 丸 第1期 調 査	平成30年度	本丸御殿跡内容確認調査、次年度以降調査検討 二之丸南御蔵跡室内整理作業及び発掘調査報告書刊行
	令和元年度	本丸御殿跡内容確認調査
	令和2年度	室内整理作業及び次年度以降調査検討
	令和3年度	本丸御殿跡・三社跡内容確認調査 室内整理作業及び次年度以降調査検討
	令和4年度	本丸御殿跡内容確認調査、室内整理作業
	令和5年度	本丸御殿跡内容確認調査、室内整理作業
	令和6年度	室内整理作業及び発掘調査報告書刊行
本 丸 第2期 調 査	令和7年度	台所門跡周辺内容確認調査、室内整理作業
	令和8年度	三社跡周辺内容確認調査、室内整理作業 花巻城跡保存計画の検討
	令和9年度	室内整理作業及び発掘調査報告書刊行 花巻城跡保存計画の検討
史跡指定 計画策定	令和10年度	岩手県指定史跡への指定 花巻城跡保存計画の策定

3 令和8年度の調査

(1) 発掘調査担当者

調査主体 花巻市教育委員会 教育長
 調査総括 花巻市教育委員会 教育部文化財課 課長
 調査担当 花巻市教育委員会 教育部文化財課 埋蔵文化財係
 作業員 花巻市野外調査作業員登録名簿に登載されたものの中から
 書類選考により採用する。

(2) 調査箇所

花巻城本丸跡 三社跡周辺（花巻市城内地内）

(3) 実施予定期間

令和8年5月～11月（6か月程度）

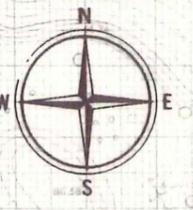
(4) 調査予定面積

約 407㎡（別添のとおり）

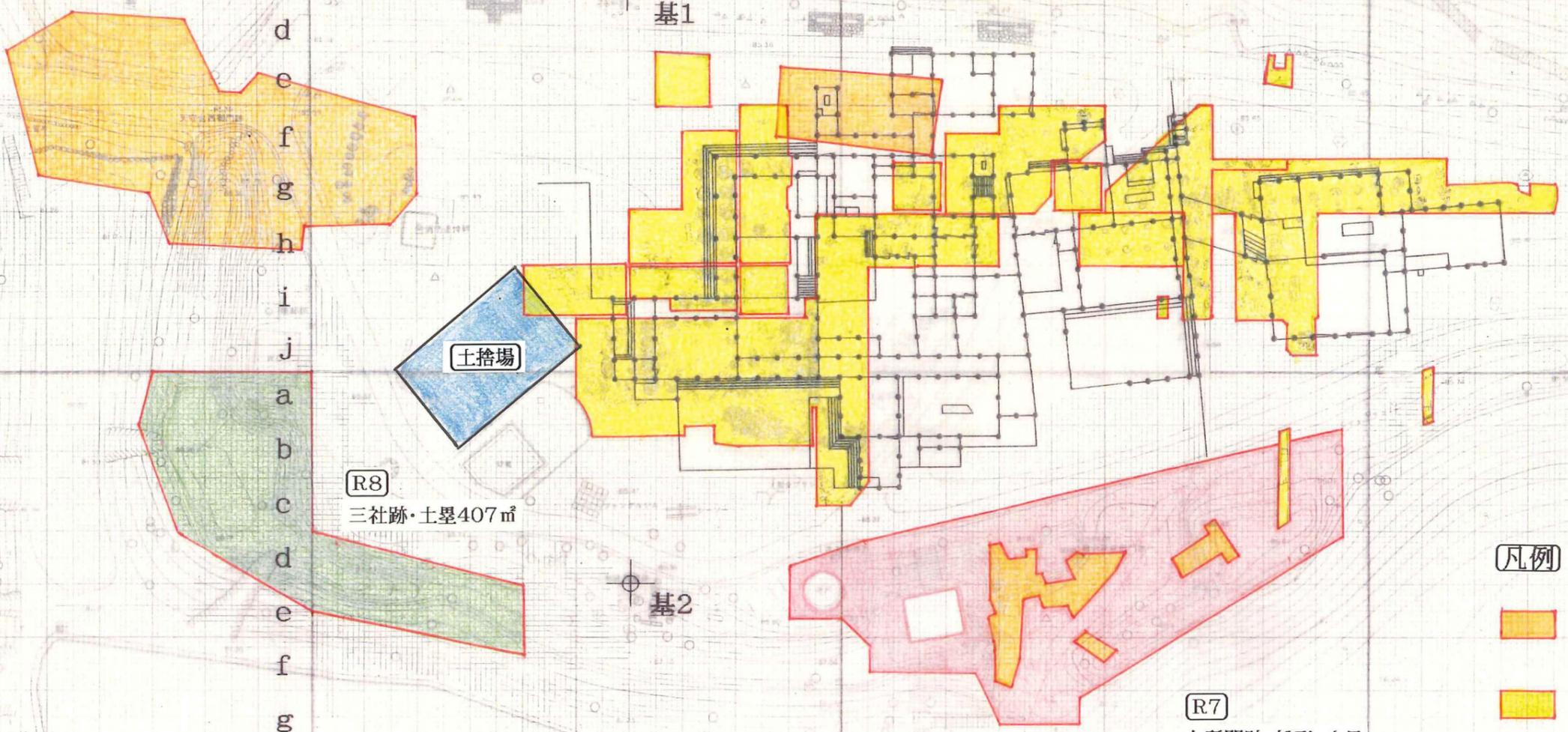
Y = 24610
Y = 24620
Y = 24630
Y = 24640
Y = 24650
Y = 24660
Y = 24670
Y = 24680
Y = 24690
Y = 24700
Y = 24710
Y = 24720
Y = 24730
Y = 24740
Y = 24750
Y = 24760
Y = 24770
Y = 24780
Y = 24790
Y = 24800

III IV V VI

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2



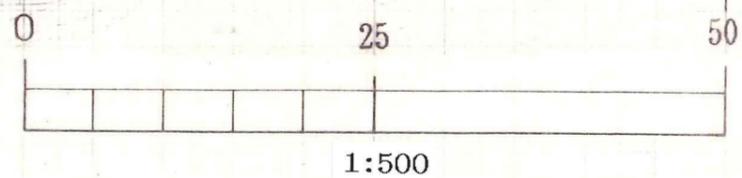
資料5-3



- 凡例
- 過去の発掘調査区
 - 平成30・令和元・令和3
令和4・令和5年度 調査区
 - 令和7年度 台所門跡周辺 調査区
 - 令和8年度 三社跡周辺 調査予定案

R8
三社跡・土塁407㎡

R7
台所門跡・枳形・土塁
東西の櫓752㎡



花巻城跡内容確認調査計画図

c
d



花巻小学校グラウンド

花巻城本丸現況測量図(縮尺1:500)

- 凡例
- △ 独立樹
 - 葉葉
 - 針広(低)
 - 芝
 - 荒地
 - 針広
 - 葉葉
 - 樹林
 - 地
 - 地
 - 石